MIRAI News
vol.157
2025.1.1発行

みんな元気に「輝いて生きる」。それが私達の願いです。

あけまして
おめでとうございます

旧年中のご愛読に心よりお礼申し上げます。
本年もどうか宜しくお願いいたします。

令和七年 元旦

10年後の未来を語り合おう！

2035年、あなたはどんな未来を描きますか

2024年12月2日～3日、**「未来の事業を語り合うクリエイティブ合宿」**が開催されました。1958年、法律や制度がなかった時代に**「道を拓く」**という強い思いで作られた名張育成会。その後、法人職員の英知・勇気・情熱により、「先駆性」というDNAを紡ぎながら時代が開拓されてきました。**これから先10年で起こりうる社会変化にどう立ち向かうのか**。未来を描く一歩が踏み出されました。

ニューノーマル(1)といわれる世界観が広がる半面、65歳以上の人口が4000万人(2)に達すると推定される**2040年問題**。しかしそれ以前に**地方の人口減少はより深刻**で、地方財政を基盤とする生活インフラが悪循環に陥る危険性を孕んでいます。名張市もまた**「行財政改革プラン」**が打ち出されるなど、もはや、**社会福祉法人は行政に守られる存在ではない**と思わなければ未来はありません。

現代の福祉を取り巻く環境はどうなる？などの**「現状認識」**を踏まえ、**「10年後の未来」**をどう描くのか・・・。逃避できない社会環境を想像し、それらに名張育成会は**どう立ち向かわないといけないか**、新時代を切り開くために職員は**何をしなければならないか**という難題に向き合い、事業所を横断した職員同士(3)が立場や職責を越えて、熱く議論しました。

(1)キャッシュレス決済などのテクノロジー、遠隔医療拡大などのヘルスケア、Eコマースなど新しい消費、人生100年時代に備えた医療・介護サービスなど。
(2)20歳～64歳の人口1.5人に1人相当。(3)公募による応募職員25名を含む50名が参加。(1)(2)出典：船井総研合宿基調講演資料。

（裏面に続く）

発行：社会福祉法人 名張育成会 広報委員会　〒518-0615 名張市美旗中村2326　TEL 0595-65-0271　FAX 0595-65-2936
発行責任者：市川知惠子　編集責任者：川出将規　編集長：佐伯典昭（株式会社サンエイ）　編集デザイン主任：新井知子（株式会社サンエイ）　題字：千秋育子

●名張育成会のホームページ　名張育成会　検索

2025年　新しい年　おめでとうございます。
今年もよろしくお願いします。

「歩みを止めない」･･･昨年はこの言葉を書きました。順調とばかりは言えない名張育成会の支援や経営に、足元を観よ、地道に日々の実践を重ねよ、という思いと、しかし何があっても前に進むという願いからでした。

しかし、この一年それだけでよいのかという思いが沸々と湧き上がってきました。それは、社会が予測不能な渦の中に巻き込まれ激変を遂げていることが大きな理由です。この中を、目的地への羅針盤を持たずして乗り切って行けるのかという思いです。しっかりとした航路と羅針盤をもって前に進まなければいつか消失し、理念に基づいた仕事ができなくなるのではないかという不安です。2040年の日本の社会像が幾度も繰り返され出てきます。そして経済的に小国になっていく日本、地方の疲弊････そんなものに負けない理念と実践を今から創り出していかなければ利用者の方々を守れない、地域に貢献できないのではないかという不安です。よって、私たちは新しく大きく飛躍することを目指します。

2025年はその飛躍のための第1歩を踏み出す年です。10年後の法人像をみんなでグランドデザインし、その工程を具体化することを1年かけて取り組みます。これを、可能な限り多くの職員と取り組んで行きます。ご利用者はもちろん地域の方々のご意見も賜りながら、です。力を合わせ、進んでまいりましょう。よろしくお願い申し上げます。

令和7年元旦

社会福祉法人名張育成会理事長　　市川知恵子

10年後の未来を共に考える

ディスカッション前半のテーマは**「現状認識について」**。多くの地方自治体は、「人口減少」「高齢化」「経済縮小」という課題に直面しており、私たちの生活インフラがいつ悪循環に陥らないとも限りません。そのような環境で、**地域福祉の一役を担う名張育成会は、どのようにして存続を図り、満足のいく福祉サービスを地域に提供するのか**。起きてはならない事態を想定し、現状の厳しさを見つめ直しました。

それを受け、後半のテーマは**「10年後の未来について」**。途切れのない福祉の実践と名張育成会の生き残りをかけ、**今後の事業はどうあるべきか、補助金に頼らない体制をどう作っていくか、そのために法人職員が行うべきこと**など、議論に壁を作らず意見交換をしました。

「名張育成会を、名張市のシンボルにしよう！」。ディスカッションで発表された意見の一つです。容易に実現できるものではありませんが、現事業との関りを軸に水平連携、垂直統合を**「街」**というキーワードで模索すれば、決して果たせない**「未来」**ではありません。

さて、議論は始まったばかり。これから先情熱を絶やさず、**「道を拓く」**という覚悟で臨んでまいります。

（取材：広報委員会）